

2017 年度「研究者の横顔」 松井 基浩先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

16歳の時に悪性リンパ腫に罹患し、落ち込んでいた時に、小児がんの子どもたちの前向きに闘病する姿に勇気づけられ立ち直らせてもらった。自分を立ち直らせてくれた小児がんの子どもたちの少しでも力になりたいと医師、そして研究者となりました。

2. 助成研究の内容紹介

小児がんは全体的には治療成績は良くなってきています。これらの治療成績は臨床試験に基づくもので、少数ながら、発症当時から非常に全身状態が悪く、集中治療室への入室を余儀なくされるような患者さんは、このデータには含まれていないのが現状です。そこで、以下の3つのフェーズの研究を実施します。

- 1.がん救急をきたす代表的疾患群の病態、頻度、対処法、および予後の情報を調査
- 2.上記研究結果に基づく、各疾患群への暫定的治療指針の策定
- 3.病態解明のためのサイトカインプロファイリング

3.2の将来に繋がる結果予想

1.2によって確立したがん救急患者さんの管理方法を実施することで、実際に死亡率や合併症発生率を減らすことができると期待されます。

3.により病態解明につながり、これらの予防法および治療法の開発に役立つことが期待されます。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

大きな研究成果を出せるよう頑張っていきます。